(c)宮崎日日新聞社

宮日報道と読者委員会　第74回（紙面開催）

多様な意見 掘り起こして

SNS 冷静さ啓発を

県知事選

宮崎日日新聞社の報道の在り方を考える「宮日報道と読者委員会」（委員長・水永正憲延岡市キャリア教育支援センター長）の第74回会合は、紙面開催方式で行われた。県知事選（12月）と熊本地震（7月）を巡る報道についてそれぞれ意見を述べた。

―県知事選（12月10日告示、27日投開票）には5期目を目指す現職の河野俊嗣氏、元職の東国原英夫氏、新人で元県議の右松隆央氏の3人が立候補を表明しており、本紙は毎月27日付で「プレーバック知事選」で今に続く選挙の構図を追った。一連の報道にどんな印象を持つか。

水永委員長　「プレーバック知事選」は大変読み応えがあった。河野さんが4期でどんな政策に取り組み、どのような成果と課題があるのか。東国原さんが1期でどうだったのかということを、さまざまな立場の人たちの意見を掘り起こすような企画があるといいのでは。

有馬委員　「プレーバック知事選」は宮崎の政治の歴史が分かり、政治学研究の資料となる。記事中で、自民重鎮県議の「財政力の弱い宮崎は、国の補助金を引っ張るためにも期数を重ねて力を蓄えさせる。知事を育てようという土壌があるのでは」というフレーズが興味深かった。

伊達委員　スタンスの違いをわかりやすく伝える記事は候補者を選ぶ大きなヒントになる。そういう意味でも、候補者アンケートに今回も期待したい。外国人に関する記事は、スタンスの違いがよく出ていた。「プレーバック知事選」でこれまでの県知事選の変遷が改めてよく分かった。

―本紙は各陣営の戦略や選挙情勢に加え、県政課題への各候補の考えを紹介して議論を喚起したい考え。

伊達委員　SNSで「映える」発信をすることが目的になっていないか？　あくまで有権者が判断するためのツールの一つと考えるべきで、再確認する記事が必要では。知事に求める資質をもう一度考える必要がある。有権者がお題を出してSNSで答えをもらうというやり方も面白いのでは。

水永委員長　前回知事選の連載では、登場された方々が語るそれぞれの生活や活動を通じ、県政の課題が生々しく伝わってきた。3人の候補者がどう取り組むか明らかになっていくといい。新聞はSNSを利用している人たちにも直接届けられるような新しいコンテンツも必要かもしれない。

吉岡智子編集局長　告示まで約1カ月。支持団体固め、草の根活動、SNSでの空中戦とそれぞれの動きを追いつつ、求められている知事像を県民と共に考える報道を続けていく。

・検証する企画「知事選SNSチェック」を随時掲載。本県で発生した口蹄疫を巡るデマが広まっていることなど、さまざまな切り口から選挙戦を掘り下げる。今後期待することは。

有馬委員　特にSNSに関する記事は驚くことが多かった。ついに宮崎にもやってきたという感じ。知事選だけでなく今後の選挙は大丈夫か。選挙期間中のSNSへの規制などは結局進んでいない。このような記事を掲載し、県民に次の知事選では冷静になるよう啓発することが重要だと思う。

伊達委員　SNSで「映える」発信をすることが目的になっていないか？　あくまで有権者が判断するためのツールの一つと考えるべきで、再確認する記事が必要では。知事に求める資質をもう一度考える必要がある。有権者がお題を出してSNSで答えをもらうというやり方も面白いのでは。

水永委員長　前回知事選の連載では、登場された方々が語るそれぞれの生活や活動を通じ、県政の課題が生々しく伝わってきた。3人の候補者がどう取り組むか明らかになっていくといい。新聞はSNSを利用している人たちにも直接届けられるような新しいコンテンツも必要かもしれない。

吉岡智子編集局長　告示まで約1カ月。支持団体固め、草の根活動、SNSでの空中戦とそれぞれの動きを追いつつ、求められている知事像を県民と共に考える報道を続けていく。

おことわり　「宮日報道と読者委員会」は通常、委員3人と本社側が出席して審議しています。今回は対面で行えなかったため、質問への回答を掲載する紙面開催としました。



水永正憲さん



有馬晋作さん



伊達　紫さん

委員長・延岡市キャリア教育支援センター長　水永　正憲さん

委員　宮崎公立大名誉教授　有馬　晋作さん

委員　宮崎大理事補佐　伊達　紫（ゆかり）さん


宮崎日日新聞
外国人材で温度差
農民連盟発足で組織戦
跋扈する偽情報
跋扈する偽情報
跋扈する偽情報